

謹賀新年



社団法人
群馬県造園建設業協会

会 長
清水 一也

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え皆様には穏やかな新年をお迎えのことと存じます。

昨年は内外共に波乱に満ちた一年でした。わが国では、円高の中で関係産業はその影響を受け、生産拠点の海外依存が加速されましたが、後半では内需が若干向上し、経済環境の回復の兆しが出てきました。しかし建設業界では荒波の中で進路の方向を見出せず、厳しさを禁じえない年でもありました。

私たち造園業界では、昨年10月、名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)を契機に、環境を支える緑の関連事業の増大を期待していましたが、その実には程遠く、厳しい一年でしたが、当協会では郷土の緑化に関わる各種事業に参加し、地域の社会貢献に努力いたしました。

その中で、群馬県と協賛した事業として昨年5月、館林市で行われた『花と緑の群馬づくり・きらきらフェスティバル2010』は中心市街地を花と緑で彩り、快適な都市景観を創出したことは、多くの市民に評価されました。今年はDC関連として渋川市で盛大に実施されますので、会員共々協力してまいります。

また群馬県では初めて、昨年10月に横浜市で開催された、全国技能五輪大会の造園部門に選手を派遣したことです。この事業は選手を選抜いただいた勢多農林高校(前橋市)の全面的な協力の下、技術委員会をはじめ、群馬県技能士会の役員及び関係する技能職の方々のご指導の賜物と感謝いたします。

さて今年の干支は辛卯(かのと・う)。「辛」は十干の8番目、「卯」の字は新(あたらしい)で、草木が枯れて新たな世代が生まれようとする状態を表しているそうです。「卯」は、十二支の4番目。陰陽五行で「木」性に当たります。季節は春・旧暦の2月、方位は東が割り当てられ、動物は兎(うさぎ)が割り当てられています。また「卯」の字は「茂る」意味で、草木が地面をおおう状態を表しているそうです。

本年も会員とともに、諸事をあらため草木の豊かに茂る緑豊かな県土の創出と、美しい群馬、心地よい故郷造りの一翼を担う協会として事業を推進してまいりますので、関係各位のご協力をよろしく願いいたします。



群馬県知事

大澤 正明

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、景気の低迷に加え、急激な円高により、経済を取り巻く状況は厳しいものでした。本年も経済状況は依然として先行き不透明で、雇用に関しても厳しい状況が続くと思われます。

現在、平成23年度予算を編成しておりますが、県債残高の増加、基金の減少など、財政状況は引き続き厳しい状況であります。国の状況を把握して、内容の濃い予算を組んで群馬県を元気づけていきたいと思っています。

本年の明るい話題としては、北関東道がいよいよ3月19日に全線開通となります。このことは、7月から開催する『群馬デスティネーションキャンペーン』に弾みがつくとともに、高速交通十時軸の結節点として、本県の経済・観光・文化等あらゆる面での交流がさらに広がり、本県が大きくはばたく絶好のチャンスと考えております。

さて、造園関係に目を向けますと、県全体の税収が減少しそれに伴い公共事業の予算も大幅に減少している状況ではありますが、道路・河川整備等の基盤整備とともに、ゆとりある県民生活や環境保全のために、良好な景観形成、緑化の推進や植栽の管理といった部分も必要不可欠であります。全国都市緑化ぐんまフェアの継承事業である『花と緑のぐんまづくり推進事業』を中心に、今後も、緑豊かで潤いあふれる県土づくりに努めていきたいと考えております。

結びに、『花と緑のぐんまづくり推進事業』のフェスティバルが、本年は渋川市で開催されます。駅前、市街地そして伊香保の温泉街を花で飾って訪れる方々を精一杯もてなしたいと思います。造園関係の皆さまにご協力をお願いするとともに、今後のご発展を祈念申し上げ新年のあいさつといたします。